

豊田市長 太田 稔彦 様

提 言 書



令和5年9月21日

藤岡南地域会議

第9期 藤岡南地域会議委員一覧

順不同・敬称略

部会	氏名	フリガナ	所属母体等	備考
高齢化対策部会 (9名)	小川 和成	カガリ カズナリ	藤宮自治区	会長
	足立 博司	アダチ ヒロシ	西中山自治区	
	井上 進	イノウエ スム	識見を有する者	
	飯伏 博和	イフシ ヒロカズ	藤岡緑ヶ丘自治区	
	太田 京子	オウダ キョウコ	西中山自治区	
	小野 英鑑	オノ ヒデヒロ	藤岡南地区高齢者クラブ連合会	
	鈴木 康孝	スズキ ヤスタカ	深見・田茂平自治区(連区)	
	廣瀬 隆	ヒロセ タカシ	藤岡南地区区長会	
	吉田 鋭次	ヨシダ イツジ	藤岡南地区民生委員児童委員協議会	
子育て環境改善部会 (8名)	金井田 満之	カネイダ ミツヒ	西中山自治区	副会長
	天每木 正	アマキ タカシ	深見・田茂平自治区(連区)	
	大森 英司	オオモリ イシ	藤岡商工会・観光協会	
	小林 英治	コバヤシ イシ	深見・田茂平自治区(連区)	
	鈴木 淑子	スズキ シヨ	藤宮自治区	
	平野 理恵	ヒラノ リエ	藤岡ニューハイツ自治区	
	森井 康友	モリイ ヤスユキ	藤宮自治区	
	森下 克明	モリシタ カツアキ	藤岡南中学校PTA	

藤岡南地区は、平成17年に東海環状自動車道が開通し、交通アクセスが飛躍的に向上し、今もなお、旺盛な住宅開発に伴う転入世帯が増加傾向にある地域です。

当地域会議において、高齢化率の高まりや子育て世代の若い転入者の増加に対し、中長期的な将来像を描いた取組が必要と判断し、藤岡南地区区長会との意見交換会や地域会議委員が所属団体へ聞き取りを行いました。

結果、「転入世帯の高齢化対策・子育て環境」に対する地域課題の解決にむけて、次の2点を提言いたします。

提言 1

高齢者世帯・一人暮らし高齢者が健康で安心して元気に生活できる地域づくり

提言 2

自然豊かな地域を生かし、地域が協力し支えあう環境「ふれあいファーム」の開設

藤岡南地域会議 会長 小川 和成

提言 1 高齢者世帯・一人暮らし高齢者が健康で安心して元気に生活できる地域づくり

【高齢化対策部会】

1 背景

こどもが独立した高齢夫婦世帯の増加とともに、転入世帯は、個人情報保護の取扱いに敏感で、地域住民が転入世帯を把握しづらく、近所付き合いが希薄になっています。

さらに地域と積極的には関わりを持ちたくないと思われられる高齢者も増え、趣味を通じた交流や情報交換ができる居場所に出かけることも少なくなり、高齢者のみなさんを地域での見守りが十分できなくなってきたことを危惧しています。

2 地域の取組内容

地域住民がこのような状況の高齢者のみなさんを見守れるように、特に『一人暮らし高齢者や健康を維持したい75歳以上の高齢者（以下「高齢者」という。）』に対象を絞り、活動できる居場所へ自主的に参加できる機会をつくりながら「いつまでも歩ける・健康な身体づくり」と「安心安全に暮らせる地域づくり」を地域の目指すべき姿として取り組みます。

(1) 居場所情報のとりまとめ

コミュニティ会議が、高齢者の集える場所（居場所）をとりまとめ、一元化したチラシの作成及び更新に取り組みます。

(2) 「つなぎすと」として活動

藤岡南地区高齢者クラブ連合会、自治区（役員・住民）が、高齢者と話をしながら居場所情報を紹介します。また、包括支援センター⇄民生委員⇄自治区をつなぐ人（つなぎすと）の役割を担います。

(3) 高齢者クラブ活動の「体験会」を開催

藤岡南地区高齢者クラブ連合会の活動の中で、非会員の高齢者でも参加できる行事（体験会）は自治区を通じて周知します。

(4) 他自治区との交流の場を創設

自治区の行事や自治区管理のマレットゴルフ場がオープン利用できるように、自治区の枠を超えた高齢者の交流の場を創設します。

3 市へ求める取組内容

(1) 居場所情報を一元化したチラシの作成支援

地区内で高齢者が集まる活動や場所などにはありますが、居場所情報が集約できていないことから、市、コミュニティ会議、自治区などからの居場所情報をまとめたチラシの作成支援を求めます。

(2) 地区内会場への「移動手段」を確保

運転免許証返納などにより自ら移動できる手段が乏しいことから、藤岡地域バス運営協議会で検討されていることの実現化、藤岡南地区内を巡回するバスの運行や敬老パス乗車券の発行を求めます。

4 期待する効果

- (1) 高齢者自身の健康維持ができるようになります。
- (2) 高齢者の日常生活状況の把握ができやすくなり、安心して暮らせる繋がりある地域となります。

提言2 自然豊かな地域を生かし、地域が協力し支えあう環境「ふれあいファーム」の開設 【子育て環境改善部会】

1 背景

子育て世代の転入世帯は、住宅ローンの負担や働き方改革などによる共働き家庭が増えています。両親が不在中の子ども達は遊び場を求め、交通量が多く、狭い道路で遊ぶ姿が多く見られます。また遊び方が分からず、家にいる子ども達も多くなり、子どもにとって安心・安全に地域で過ごせる居場所や、安心して子育てができる環境が求められています。

2 地域の実践内容

子ども、特に『小学生』を対象とした、安全に運営でき、親が安心して通わせることができ、コミュニケーションが生まれやすく、外で学べる居場所づくりとして「ふれあいファーム（以下「ファーム」という。）」を開設します。

(1) 地域のひとづくり

地域の有志を中心とした実行部隊を立ち上げて、ファームの運営方法を企画します。

(2) 「野菜づくり」を通じたふれあいの場づくり

自治区に住む小学生や、大人であればどなたでも参加でき、ファームと一緒に野菜の育て方を学びながら、居場所づくりを進めます。

(3) 「遊びと学び」の場づくり

近くて安心できる場所である自治区の区民会館や交流館をファームの活動場所とし、最初は小さなプランター栽培から開始し、野菜の種植え、水やり、草取りなどを通して成長記録を行いながら、最後は収穫祭を実施します。

【共働きの内容】

- ・自治区、藤岡南交流館：野菜づくりのための場所の提供、地域住民に活動を周知するためのチラシの掲示及び回覧
- ・ふじなんキッズ、高齢者団体：活動の支援

活動当初は2か所程度の自治区から始め、最終的には藤岡南地区全体への拡大を目指します。また、将来的には、収穫した野菜の販売や子ども食堂開設も視野に入れていきます。

3 市へ求める実践内容

ファームの活動参加者が増え、季節に応じた野菜が収穫できるようになりましたら、収穫した野菜を調理する活動を増やしていきます。それまでは既存施設の調理室を利活用しますが、将来的に活動が活発になった際には、調理室のある交流館への改装を求めます。

4 期待する効果

(1) 自治区の区民会館や藤岡南交流館の有効活用

既存施設の新たな活用方法を見出すことにより、利用者増に繋がります。

(2) 転入者を中心とした子育て世代と先住世帯（高齢者）の交流の場づくり

ファームの活動を通じて地域の特性を知る機会やコミュニケーションの場とします。

(3) 多様な学びの場づくり

ファームでの野菜づくりはもちろんのこと、食の大切さ（SDGs）、世代を超えた知恵、防災対策などが学べる場とします。

※藤岡南地区の概要（提言参考資料）

人口・世帯数

（単位：人）

	2023年（7/1 現在）	2020年（7/1 現在）
人口	10,851	10,560
総世帯数	4,171	3,858
0から14歳	1,568	1,541
高齢者数（65歳以上）	2,290	1,984
75歳以上	953	740
高齢化率	21.1%	18.8%

6自治区

深見自治区	西中山自治区	藤営自治区
田茂平自治区	藤岡ニューハイツ自治区	藤岡緑ヶ丘自治区

高齢者クラブ連合会【会員数 延べ362人】（60歳以上から加入可）

西中山さくら会【208人】	五葉会【52人】
深見会【75人】	田茂平クラブ【27人】

地域子どもの居場所づくり事業 実施団体

ふじなんキッズ（地区コミュニティ）
活動場所：藤岡南交流館
活動日：毎週木・土曜日（第5週含む） 15:00～17:00

3～11歳の年齢別人口数（学齢） ※網掛け：増加

（単位：人）

		2023年（7/1 現在）	2020年（7/1 現在）
こども園等	3歳	96	111
	4歳	124	113
	5歳	117	110
小学生1年	6歳	121	111
	2年 7歳	113	100
	3年 8歳	115	94
	4年 9歳	112	109
	5年 10歳	103	124
	6年 11歳	95	104

調理室のない豊田市内交流館

足助地区、稲武地区、下山地区、藤岡南地区
